



嵯峨大念佛狂言
「土蜘蛛」TSUCHIGUMO

嵯峨大念佛狂言

嵯峨地域の歴史的・文化的特色をしめす伝統芸能

嵯峨大念佛狂言

嵯峨大念佛狂言保存会
国指定重要無形民俗文化財 昭和61(1986)年指定
定期公演：春季公演(4月)、秋季公演(10月)
お松明奉納公演(3月15日)

五台山清凉寺(嵯峨釈迦堂)の境内にある狂言堂で行われる狂言。壬生寺、引接寺(千本ゑんま堂)と並んで、京都の三大念佛狂言として知られている。

弘安2年(1279)円覚上人によって始められた清凉寺の大念佛会に由来するとされる。保存会が所蔵する古面に享禄2年(1529)の墨書があることから、室町時代には能面を使用した狂言が行われたことが分かる。

昭和38年(1963)後継者養成が困難であることから一旦中断されるが、昭和50年(1975)10月に嵯峨大念佛狂言保存会を結成して復活し、昭和61年(1986)に国の重要無形民俗文化財に指定された。

壬生狂言同様、無言劇であり、狂言方はか囃子方と後見がある。囃子方は、鉦、太鼓、笛で構成され、鉦(カン)と太鼓(デン)による「カン・デン・(休み)・デン・カン・デン・デン・(休み)」と「カン・デン・デン・デン・カン・デン・デン・(休み)」という2種類のリズムが基本となっている。鬼や蜘蛛の登場や立ち回りの際には「ハヤガネ」と呼ばれる鉦の連打がある。横笛は九孔(通常は七孔か六孔)の大変珍

しいもの。

後見は舞台上で役者の着替えを手伝ったり小道具の世話をしたりする。役者に突然の事故があった際、面を付けずにその代役を務めることもある。

演目は「カタモン」と「ヤワラカモン」の2種類に分けることができる。カタモンは能楽系の演目で、ヤワラカモンは狂言仕立てのコミカルな要素を持った演目を指す。

<カタモン>

「土蜘蛛」「羅生門」「大江山」「熊坂」「橋弁慶」「百萬」「船弁慶」「大佛供養」「道成寺」「紅葉狩」「夜討曾我」

<ヤワラカモン>

「花盗人」「愛宕詣」「釈迦如来」「とろろ」「縛り坊主」「大黒狩」「大原女」「蟹殿」「餓鬼角力」

「釈迦如来」は、嵯峨大念佛狂言のみの演目として注目される。嵯峨の念佛狂言は、他の狂言に比べておおらかな古風さをよく伝えており、その点でも貴重なものである。

現在、毎年4月の土曜日・日曜日のうち3日間からなる春季公演、円覚上人の命日である10月26日に近い日曜日に行われる秋季公演の2公演を中心に実施されており、3月15日の清凉寺お松明式でも公演がある。

